

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

2012年8月刊行予定

A5判・300頁／定価 2,625円(税込) ISBN978-4-7842-1641-3

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。口絵・関連地図や、各節には一目で年代を確認できる年表や関連図版を付し、視覚的にわかりやすく解説。



大槻孝二
大禮記念京都大博覧会
京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵

内容目次

I 開国、そして、海外との交流

【1 人：海外から日本へ】ワグネル／デュリー／フェノロサ 【2 人：日本から海外へ】佐倉常七・井上伊兵衛・吉田忠七／伊達弥助・中村喜一郎／近藤徳太郎と稲畑勝太郎／丹山陸郎・佐藤友太郎・藤江永孝／中澤岩太／浅井忠と武田五一／丹羽圭介／竹内栖鳳 【3 技術・機械・様式の輸入】ジャカード・ボタン／化学染料／機械捺染／電気用・化学用陶磁器への展開／陶磁器における工場制工業の幕開け／陶磁器における新技法の導入／海外新様式の移入／マルホフ式図案 【4 海外への輸出】輸出陶磁器／千總のピロード友禪／高島屋のピロード友禪／高島屋貿易部／七宝

II 伝統と革新

【1 伝統工芸の近代化】手描き友禪と型友禪／モスリン友禪／写し友禪／京焼における新技法の開発／京焼における図案改革／近代京都の漆芸／近代における漆芸の方向性 【2 京都画壇の近代】近代への橋渡し／如雲社と後素協会／竹内栖鳳／黒猫会・仮面会／国画創作協会／田村宗立と関西美術会／聖護院洋画研究所と関西美術院／関西美術院からの展開／京都美術協会／中井宗太郎と土田杏村 【3 前近代へのまなざし】工芸品における「古代文様」／京都における古陶磁研究／琳派回帰／鶴巻鶴一／正倉院裂と名物裂の復元／松坂屋 【4 工芸における作家性 アートへの展開】創作陶芸／前衛陶芸／染織の作家性／染織の前衛／漆芸における作家性／人間国宝／伝統工芸／河井寛次郎と民藝

III 工芸と絵画の往還

【1 画家による下絵・絵付・デザイン】画家による絵付陶磁器／千總と西村總左衛門／高島屋の下絵／二代川島甚兵衛と美術織物／浅井忠と図案教育 【2 図案家の誕生】図案の募集／神坂雪佳と図案／モダンデザインから捺染緋図案へ／図案家の団体／高坂三之助と京都図案協会／百選会の標準図案 【3 工芸と絵画の往還】浅井忠／新井謹也・霜鳥之彦／神坂雪佳／津田青楓／堂本印象

IV 伝統工芸の場

【1 教育の場】京都府画学校／京都市立美術工芸学校と京都市立絵画専門学校／京都市立美術工芸学校の図案科／京都染工講習所／京都高等工芸学校／京都高等工芸学校図案科標本／陶磁教育の場 【2 研究の場】舎密局と染殿・織殿／京都織物会社／染織試験場／陶磁器試験場／京都三園・四園／瓢池園と京都瓢池園 【3 披露の場】京都博覧会／内国勸業博覧会／祇園祭と時代祭／大禮記念京都大博覧会／大禮記念京都美術館／美術工芸展示の場 【4 流通の場】九雲堂／呉服店から百貨店へ／百貨店の展覧会／百貨店による流行の創出／美術商と美術倶楽部／画商

京都美術工芸繊維資料館蔵
浅井忠 図案
朝顔・杉林古箱香



並木 誠士 (なみき せいし) …1955年東京都生。京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
清水 愛子 (しみず あいこ) …1974年京都府生。京都工芸繊維大学特任助教
青木美保子 (あおき みほこ) …1960年山口県生。京都女子大学家政学部准教授
山田由希代 (やまだ ゆきよ) …1974年京都府生。京都府立堂本印象美術館主任学芸員

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel075-751-1781 fax075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	京都 伝統工芸の近代	本体2,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1641-3	
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
					書店番線印

近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす23篇。【内容】ラファエル前派からアーツ・アンド・クラフツ運動へ／フランスの近代装飾・工芸運動／ヘルマン・ムテジウスとドイツの工芸学校改革 他

▶A5判・336頁／定価3,045円

ISBN978-4-7842-1438-9

***アーツ・アンド・クラフツと日本**

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

19世紀後半から20世紀初頭にかけてイギリスで繰り広げられたアーツ・アンド・クラフツ運動は、ヨーロッパ大陸でアールヌーヴォーやユーゲントシュティールなどの新様式を誘発しながら広がっていった。この運動と日本との関わりをさまざまな視点から論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察する。

▶A5判・304頁／定価3,045円

ISBN4-7842-1207-8

国際デザイン史 日本の意匠と東西交流

デザイン史フォーラム編

1999～2000年に開催された「国際デザイン史フォーラム」（大阪大学大学院文学研究科美学研究室主催）をもとに、デザイン史における日本と西洋諸国との交流を探る56篇を収める。巻末には、生没年・原綴を付した人名索引を収録。豊富な挿図（モノクロ）約180点を掲載。

▶A5判・320頁／定価3,045円

ISBN4-7842-1079-2

ダーティントン国際工芸家会議報告書

ダーティントン・ホール・トラスト&ピーター・コックス編

1952年イギリス南西部にあるダーティントン・ホールにおいて、バーナード・リーチを中心に17か国122名が参加した国際工芸家会議の報告書の翻訳。産業化が進み、デザイナーが確立していくなか、スタジオ・クラフトや小さな工房のありかたをめぐる熱心な討議がなされた。本文篇で翻訳を、資料篇で原典および関連資料を掲載。

▶A5判・590頁／定価8,925円

ISBN4-7842-1141-1

応用美術思想の導入の歴史

天貝義教著

ウィーン博参同より意匠条例制定まで

「博覧」「伝習」「勲業」を目的としたウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内閣勲業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、応用美術思想がいかに学習され、明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしていったかを明らかにする。

▶A5判・410頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1505-8

伝統産業の成立と発展 播州三木金物の事例

桑田優著

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡付ける通史である。

▶A5判・302頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1523-2

みやこの近代

丸山宏・伊従勉・高木博志編

研究分野の相違を問わず、また、時流の政治や論調に動することなく、「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じようと開かれた京都大学人文科学研究所「近代京都研究会」。そこで論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。

▶A5判・268頁／定価2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

***近代京都研究**

丸山宏・伊従勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

近世京焼の研究

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきもの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にした。技術の系譜や産業的な展開、流通・市場の動向などの視点から京焼陶工の実態やその作風、京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁／定価6,615円

ISBN978-4-7842-1558-4

***近世東アジア海域と文化交流**

松浦章著

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波瀾を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

▶A5判・472頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1538-6

視覚の一九世紀 人間・技術・文明

横山俊夫編

視覚という世界の広がりや視覚メディアを中心とした19世紀の文明史的研究。【内容】“文明人”の視覚／平地劇から舞台劇へ／蔵書家の視界／ナポレオンのコルベール／明治写真考／オーストラリアの博覧会におけるジャパン／巨船グレート・イースタンの視像／真山青果の歴史観を求めて／チョンキナ／富士の近代／病いの世紀 他

▶A5判・464頁／定価6,090円

ISBN4-7842-0700-7

***万国博覧会の研究**

吉田光邦編

19世紀、体制を整備しつつあった国家・近代的な企業・国民という意識に支えられた大衆社会を基盤にスタートした新しい情報メディアの場、博覧会の諸相を明かす学際的研究。【内容】博覧会時代の背景／万国博覧会と日本の「美術工芸」／クリストファー・ドレッサーと日本／グループ社の19世紀／菊と万国博／パリ博覧会日本館・1937 他

▶A5判・374頁／定価6,825円

ISBN4-7842-0414-8

岡倉天心の比較文化史的研究

清水恵美子著

ボストンでの活動と芸術思想

明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三（天心、1863～1913）の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。著者がアメリカで行った文献資料調査により、発見した新出資料などを駆使し、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的な解釈を試みる。

▶A5判・548頁／定価11,235円

ISBN978-4-7842-1605-5

動物・植物写真と日本近代絵画

中川馨著

「明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真」を考察範囲とし、先行研究の少ないそれらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説する。またその「動物・植物写真集」が、美術資料として担った役割を解き明かすことにより、近代日本の「写真」と「絵画」との関連性を論究する。

▶A5判・256頁／定価5,250円

ISBN978-4-7842-1598-0

近代日本における書への眼差し

高橋利郎著

日本書道史形成の軌跡

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版や宝物調査、展覧会の列品、文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に理解し、書跡への眼差し影響の大きさを論じる。

▶A5判・304頁／定価5,040円

ISBN978-4-7842-1595-9

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。